令和８年度八軒北小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：27019

	「学ぶ力」	
実態	成　果	課　題
	◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の横目で子どもの割合が全国より高い水準にあることが分かった。 ◇アンケート結果から「自ら課題を見付け、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の数値が高く、保護者や教職員からも評価されている。	◇学校評価の総評（自由記述欄）において、ICT の活用や学習への意欲は高まっているものの、「自らの考えに自信をもつこと」や「学習内容を確かな力として定着させること」については、児童によって差が見られる。 ◇友達の意見の聞くよさを感じたり自分の考えをもとうとしたりするが、自分の考えを進んで発表することにつながらない子どもが高学年になるにつれて増えていく実態が読み取れる。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く　相互承認の感度 〉の現状と課題	
	◇札幌市の共通指標である「人の役に立ててうれしいと感じることがある」という項目において、全ての学年で肯定的回答が 90%近くに達している。下の学年へ伝統を受け継ぐ活動や、年間の節目に「ありがとうカード」を贈り合う取り組みが継続されており、これらの活動が社会的承認を生み、児童の充実感や自分に自信をもつ素地、自己肯定感を高める要因となっている。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力　【他者とつながり合うことのよさを知り、力を伸ばす子どもの育成】

	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
取組	（1）研究主題「自ら課題に働きかけ、思いや考えを実現できる授業」の実現に向け、子どもが問いをもつための意図的な単元構成と導入の工夫により、課題に向かう意欲や問題意識を喚起する。これにより、子どもが自ら思いや考えをもとうとする姿を引き出し、個別探究と協働探究の時間を保障する。 （２）単元の学びのプロセスにおいて、思考時間の確保とペア・グループによる交流活動を工夫する。多様な考えを比較・検討し、価値を創造する場面を設定することで、児童が自らの考えに自信をもち、学習内容を確かな力として定着させる。	（１）よりよい学級・学年にするための活動の充実 子どもの思いや願いが生きる係活動 の実施。 子どもが中心となり、学年で協働的に活動する場 の設定。 （２）「自分たちで計画を立て、行動できるような子ども」の育成 各行事への参加の仕方の模索 。委員会・クラブ等で、活動を作りだす場の保障。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	（1）児童が「ICT を上手に使い学習に役立てている」と高い肯定感をもっている現状を基盤とし、「操作の習得」の段階から、さらなる「学びの質（思考の深まり）の向上」へと活用の目的をシフトさせた授業改善を推進する。 （2） 教職員による「効果的な活用」への評価と児童の実感との乖離を解消するため、端末を「自分の考えの表現・共有・振り返り」の各場面で意図的に位置付け、個別最適な学びと協働的な学びを往還させるツールとして機能させる。	

＜本プログラムの実行に向けて＞

新年度	〔一人一人の教職員〕	〔学校全体〕	次年度へ
◇本プログラム共有・職員会議（4月21日）・HP掲載	◇日常の授業、教育活動◇各自の研修・札教研、年次研修等	◇校内研究、研修、子どもの育ちを共有・パートナー校	◇学校評価◇成果と課題を共有・研究全体会